

すっきりとした箱書き形式に一新！

評価票等に関する改善（政策の評価）

Before【平成18年度】

政策の評価票

政策 ひとりひとりが個人として厚く尊重される

方向 日々のくらしのなかに人権を大切にし、尊重し合う習慣が根付いた「人権文化」を築いていくことにより、子どもも高齢者も、女性も男性も、障害のあるひともないひと、また国籍や民族、生まれや生い立ちに関係なく、すべてのひとがいきいきと暮らせるまちをめざす。

評価 C (c) 客観指標については、全8項目のうち人権侵犯事件受理件数など2項目でa評価であるが、保育所待機児童数など5項目でd又はe評価であり、全体として昨年度を下回り、どちらとも言えない状況である。市民生活実感についても、人権尊重に関する全8項目のうち6項目でC評価であり、どちらとも言えない状況である。客観指標評価及び市民生活実感評価を総合的に勘案し、この政策の目的は、そこそこ達成されていると評価する。

Table with 2 columns: Policy Item, Evaluation. Includes items like 1111 人権侵犯事件受理件数 (545 a(-)), 1112 保育所の待機児童数 (271 d(b)), etc.

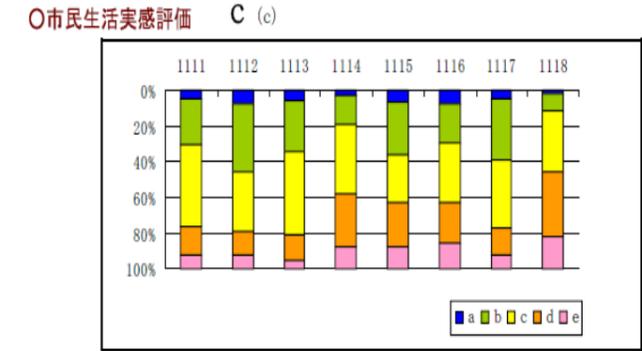


Table with 2 columns: Policy Item, Evaluation. Includes items like 1111 京都は普段の生活の中で「人権」を大切にし、尊重し合う習慣が根付いている (c (c)), 1112 男女が個人として尊重され、共に個性や能力を発揮できる社会になってきている (c (c)), etc.

After【平成19年度】

「政策の重要度」(大切と思われる政策を5つまで市民が選択した結果)欄を新設！

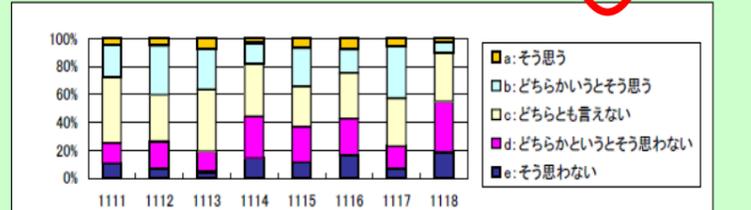
過去2年間の評価結果と比較！

政策番号 政策名 111 ひとりひとりが個人として厚く尊重される
政策の方向 日々のくらしのなかに人権を大切にし、尊重し合う習慣が根付いた「人権文化」を築いていくことにより、子どもも高齢者も、女性も男性も、障害のあるひともないひと、また国籍や民族、生まれや生い立ちに関係なく、すべてのひとがいきいきと暮らせるまちをめざす。

過去2年間の評価結果と比較！

Table 1: 政策の評価に用いる客観指標の最新値と評価. Columns: Policy No, Objective Indicator Name, 17, 18, 19 (Value/Eval). Rows include 1111-1118 and overall average.

Table 2: 政策を構成する施策に対する市民生活実感評価. Columns: Policy No, Question, 17, 18, 19 (Eval). Rows include 1111-1118 and overall average.



3 総合評価 (市民生活実感総合評価+客観指標総合評価)
C 客観指標については、全8項目のうち、虐待相談に対して速やかに対応(48時間以内)した件数の割合がdからb評価に上がるなどの変化はあるが、aからd評価まで全体としてばらつきがあり、昨年度と同様で、どちらとも言えない状況である。市民生活実感についても、人権尊重に関する全8項目のうち6項目でC評価であり、どちらとも言えない状況である。客観指標評価及び市民生活実感評価を総合的に勘案し、この政策の目的は、そこそこ達成されていると評価する。

Table showing importance ranking for 27 policies in 17, 18, and 19 fiscal years. Policy 111 moved from 11th to 13th place.

5 原因分析・今後の方向性
総合評価は昨年度に引き続きC評価となった。しかしながら、構成する8施策のうち、子どもの人権については、昨年度から1ランク下がってB評価となっている。子どもの人権については、児童相談所に国基準を大きく上回る児童福祉司を配置し、かつ地域レベル、行政区レベル、全市レベルの重層的なネットワークを構築し、市民と行政が一体となって子育てを支えていくシステムを作り上げてきたこと等により、「虐待相談に速やかに対応した件数」及び「子ども子育ていきいきフェア参加人数」の2指標がa評価となったことによる。しかしながら、人権文化が十分根付いた状況にはなっておらず、近年痛ましい事件が多発している児童虐待や増加傾向にあるといわれる高齢者への虐待、更にインターネット等による人権侵害など新たな問題が顕在化してきている。一人ひとりの心の問題が大きなウエイトを占め、い分野ではあるが、着実に施策を展開していく必要

「原因分析・今後の方向性」欄を新設して説明責任を強化！

Table showing implementation measures and their overall evaluations for 1111-1118. Includes columns for measure name, description, and evaluation results for 17, 18, 19 fiscal years.

この政策を実現するための施策とその総合評価を記載し、政策と施策の関係を明確に！

過去2年間の評価結果と比較！

評価票等に関する改善（施策の評価）

すっきりとした箱書き形式に一新！

過去2年間の評価結果と比較！

Before【平成18年度】

施策の評価票

施策名 日々のくらしのなかに人権を大切に、尊重し合う習慣が根付いた「人権文化」の構築

1111 所管局: 文化市民局 共管局: なし

概要 人権尊重の考え方が日常生活に根付いた社会の構築を目指す。

総合評価 C (c) 客観指標評価は指標によりばらつきがあり、全体としてはどちらとも言えない。市民の生活実感もどちらとも言えないことから、施策の目的はそこそこ達成されていると評価する。

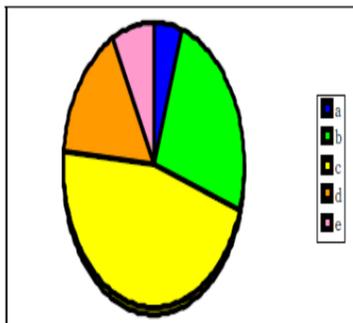
この施策の客観指標評価

客観指標総合評価 C (b)

指標名	前年度	最新値	目標値	達成度	評価
今の社会では個人が尊重されていると考える市民の割合(%)		38.2			d(-)
人権はすべての市民の問題であるとする市民の割合(%)		91.1			a(-)
人権擁護に関する制度の認知度(%)		34.4			d(-)
人権侵害事件受理件数(件)	504	545	533	102.3%	a(-)
子ども子育ていきいきフェア参加人数(人)		9000			-(-)
障害者社会参加促進事業参加者数(人)	11964	11247	12659	88.8%	e(c)
(準)企業向け人権研修参加者数(人)	611	582	611	95.3%	b(a)
(準)ウイングス京都専門相談の件数(件)	204	244	221	110.4%	a(b)
(準)長寿すこやかセンターにおける権利擁護相談件数(件)	120	84	120	70.0%	d(b)

この施策に関する市民生活実感評価

京都は普段の生活の中で「人権」を大切に、尊重し合う習慣が根付いている。



※ ()は昨年との評価結果及び数値を表しています。

<参考>この施策実現のための主な事業

- 市民啓発事業(人権)
- 世界人権問題研究センター運営助成
- 人権団体等各種補助金
- 人権啓発推進支援事業
- コミュニティセンター資料展示施設運営
- (従)企業内人権啓発

After【平成19年度】

施策番号	1111		
施策名	日々のくらしのなかに人権を大切に、尊重し合う習慣が根付いた「人権文化」の構築		
概要	人権尊重の考え方が日常生活に根付いた社会の構築を目指す。		
担当局	文化市民局	共管局	なし
上位政策	111 ひとりひとりが個人として厚く尊重される		

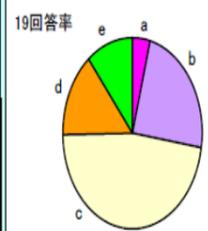
上位政策を記載し、政策と施策の関係を明確に！

施策の評価

1 客観指標評価	17年度		18年度		19年度評価			
	前年度	最新値	目標値	達成度	評価	前年度	最新値	目標値
1 人権擁護に関する制度の認知度(%)	-	d	-	34.4	80.0	43.0%	d	
2 人権侵害事件受理件数(件)	-	a	545	614	545	112.7%	a	
3 企業向け人権研修参加者数(人)	a	b	582	519	611	85.0%	c	
4 ウイングス京都専門相談の件数(件)	b	a	244	255	244	104.5%	a	
5 長寿すこやかセンターにおける権利擁護相談件数(件)	b	d	84	97	120	80.8%	d	
6	-	-	-	-	-	-	-	
7	-	-	-	-	-	-	-	
8	-	-	-	-	-	-	-	
9	-	-	-	-	-	-	-	
10	-	-	-	-	-	-	-	
	b	c	客観指標総合評価		b			

過去2年間の評価結果と比較！

2 市民生活実感評価	17年度		18年度		19年度	
	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率
a: そう思う	21	4.1%	26	4.9%	19	4.1%
b: どちらかというと思う	107	20.9%	134	25.4%	109	23.5%
c: どちらとも言えない	200	39.1%	243	46.1%	218	47.1%
d: どちらかというと思わない	114	22.3%	85	16.1%	67	14.5%
e: そう思わない	69	13.5%	39	7.4%	50	10.8%
有効回答数	511		527		463	
市民生活実感評価	C		C		C	



* この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

過去2年間の評価結果と比較！

3 総合評価 (客観指標総合評価+市民生活実感評価)	17	18	19
客観指標総合評価	b	c	b
市民生活実感評価	c	c	c
総合評価	C	C	C

この施策は地道な取組の積み重ねにより達成されるものであり、日常生活で人権が大切にされていると実感できることが重要であることから、市民生活実感評価を重視する。

4 原因分析・今後の方向性
 京都では普段の生活の中で「人権」を大切に、(市民生活実感評価)は、低いものとなっており、とはいえないという結果が出ている。これは、人権擁護に関する制度の認知度が低い(客観指標評価)ことに示されているように、人権相談・救済の取組の認知度が低いということも一因となっていると考えられ、取組の充実や既存の取組の一層の周知を図っていく必要がある。平成17年3月に策定した「京都市人権文化推進計画」に基づき、人権教育・啓発、人権保障とともに、人権相談・救済についても重点的に施策を推進し、人権相談・救済に関する総合的なネットワークの構築、相談機関等の周知、教育・啓発活動との連携、相談を受ける機関の信頼性の向上、情報収集及び提供の充実等の取組の着実な推進を図っていく。

「重み付け」欄を新設して、どちらの評価を重視するかルール化！

「原因分析・今後の方向性」欄を新設して説明責任を強化！

(参考) この施策実現のための主な事務事業				
事業名	18年度予算(千円)*	19年度予算(千円)*	18年度事務事業評価における今後の方向性	担当部・課
市民啓発事業(人権)	154,885	152,340	効率化等による見直し	文化市民局市民生活部人権文化推進課
世界人権問題研究センター運営助成		58,299	現状のまま継続等	文化市民局市民生活部人権文化推進課
人権啓発推進支援事業			現状のまま継続等	文化市民局市民生活部人権文化推進課
人権啓発推進支援事業	17,715	13,715	縮小等による見直し	文化市民局市民生活部人権文化推進課
コミュニティセンター資料展示施設運営	43,011	42,511	効率化等による見直し	文化市民局市民生活部人権文化推進課
企業内人権啓発	32,856	32,654	現状のまま継続等	産業観光局商工部経済企画課
合計	310,279	303,139		
うち、主たる事業の合計(従たる事業の合計)	234,412(75,867)	227,974(75,165)		

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含む

この施策を実現するための主な事務事業とその予算額等を記載し、施策との関係を明確に！

評価票等に関する改善（客観指標基礎データ）

すっきりとした箱書き形式に一新！

Before【平成18年度】

施策名 1111 日々のくらしのなかに人権を大切に、尊重し合う習慣が根付いた「人権文化」の構築

指標名 今の社会では個人が尊重されていると考える市民の割合(%)

説明 「今の社会では、個人の考え方や生き方は大切にされている」という設問に対する「そう思う」と「ややそう思う」の回答比率

指標の意味 人権に関する市民の意識を示す指標

算出方法・出典等 出典：人権に関する市民意識調査

推移	-	平成17年度	38.2	-
目標値	根拠	-	-	-
達成度	-	-	-	-
全国順位	評価基準	基準説明		
-	最新の数値が a:80%以上 b:60%以上～80%未満 c:40%以上～60%未満 d:20%以上～40%未満 e:20%未満	設問に対する肯定的な回答が80%以上であれば政策目的の達成として、80%以上をaとし、20%刻みで基準を設定した。		
評価	d (-)			
※ ()は昨年の評価結果を表しています。				
中期目標年次	-	根拠	-	-
中期目標値	-	-	-	-
中期達成度	-	備考	-	-

指標名 人権はすべての市民の問題であると考える市民の割合(%)

説明 「人権は、一部の人の問題ではなく、すべての市民の問題である」という設問に対する「そう思う」と「ややそう思う」の回答比率

指標の意味 人権に関する市民の理解を示す指標

算出方法・出典等 出典：人権に関する市民意識調査

推移	-	平成17年度	91.1	-
目標値	根拠	-	-	-
達成度	-	-	-	-
全国順位	評価基準	基準説明		
-	最新の数値が a:90%以上 b:70%以上～90%未満 c:50%以上～70%未満 d:30%以上～50%未満 e:30%未満	設問に対する肯定的な回答が90%以上であれば政策目的の達成として、90%以上をaとし、20%刻みで基準を設定した。		
評価	a (-)			
※ ()は昨年の評価結果を表しています。				
中期目標年次	-	根拠	-	-
中期目標値	-	-	-	-
中期達成度	-	備考	-	-

After【平成19年度】

施策名 1111 日々のくらしのなかに人権を大切に、尊重し合う習慣が根付いた「人権文化」の構築

指標名 人権擁護に関する制度の認知度(%)

担当課 人権文化推進課 連絡先 222-3381

1 指標の説明 法務局による相談や救済措置、人権擁護委員による相談、市役所や区役所における相談、弁護士による相談の周知率

2 指標の意味 人権擁護に関する制度の認知度を示す指標

3 算出方法・出典等 法務局、人権擁護委員、市役所・区役所、弁護士による人権相談等の認知比率の合計/400
出典：人権に関する市民意識調査

4 数値

	前回数値 年度	最新数値 17年度	推移	目標値		
	-	34.4	増減なし	数値	根拠	達成度
数値	-	34.4	増減なし	80.0	人権擁護に関する制度の認知度80%を目標値として設定	43.0%

5 評価基準 最新の数値が
a:80%以上
b:60%以上～80%未満
c:40%以上～60%未満
d:20%以上～40%未満
e:20%未満

6 基準説明 設問に対する肯定的な回答が80%以上であれば政策目的の達成として、80%以上をaとし、20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

17	18	19
-	d	d

過去2年間の評価結果と比較！

指標名 人権侵害事件受理件数(件)

担当課 人権文化推進課 連絡先 222-3381

1 指標の説明 京都地方法務局が受理した人権侵害件数

2 指標の意味 行政上の人権救済の柱である法務省の人権救済制度の利用状況を示す指標

3 算出方法・出典等 出典：人権擁護活動の概況（京都地方法務局、京都府人権擁護委員連合会）

4 数値

	前回数値 17年度	最新数値 18年度	推移	目標値		
	545	614	69件増	数値	根拠	達成度
数値	545	614	69件増	545	過去5年間の最高値	112.7%

5 評価基準 最新の数値が過去5年間の
a:最高値以上
b:最高値と上中間（最高値と平均値の間）の間
c:上中間と平均値の間
d:平均値と下中間（平均値と最低値の間）の間
e:下中間以下

6 基準説明 現時点では、人権救済制度の認知は十分とは言えず、当面は制度の周知と利用の促進を図ること望ましいことから、過去5年間の最高値以上となった場合をa、平均値以上をcとし、最低値を含めた按分として基準を設定した。
最高値 545件（平成17年度）、平均値 517件、最低値 494件（平成13年度）

7 評価結果

17	18	19
-	a	a